4月1日に「彩の国たばこ組合」が発足

埼玉県連合会 5組合が合併して県内3組合に

埼玉県連合会（髙沢啓会長）管内の5組合が合併し、この4月1日より「彩の国たばこ商業協同組合」として新たなスタートを切る。5組合の合併は「組合組織を存続させる」、「組合の空白地域を作らない」との決意の表れである。これにより、同連合会管内の組合数は3組合となる。

合併するのは、川口組合・埼玉中央組合・埼玉西組合・埼玉北組合・埼玉武蔵組合の5組合。合併方式は、川口組合を存続組合とし、「彩の国たばこ組合」に名称を変更するとともに、他の4組合を吸収合併するもので、関東財務局からは去る2月18日付で認可が下りた。

同連合会の合併は、2015年（平成27年）4月の2組合合併以来、5年ぶりのことである。

「彩の国たばこ組合」が発足するまでには、2018年6月に「合併準備委員会」を立ち上げて以降、本年3月までに13回の委員会を開催し、各理事長及びオブザーバーにより、合併のメリット・デメリット・運営方法や将来展望などについて細部にわたり活発な意見交換や熱心な検討が行われた。

この間、2019年9月11日の委員会では、合併への大筋の合意を得たことから、10月23日には5組合の理事長による合併契約書の調印式が行われた。その後、5組合の合併承認総会（臨時総会）が昨年11月に開催され、合併態勢が正式に整った。

新組合の理事長は存続組合である川口組合の嶋田龍二氏が務め、本年5月中旬に合併後初めての総代会を開催する予定である。

新組合の組合員数は844名（2019年12月末現在での5組合の合計数）。住所等は次の通り。

●**住所**
〈埼玉県さいたま市北区日進町1―709〉

●**電話**
〈048―782―7112〉

※「彩の国（さいのくに）」とは、1992年11月に埼玉県が県の愛称として選定したもので、産業・文化・学術などの様々な分野で発展する〈多彩な国＝埼玉県〉を表現している。新組合名もそうした願いが込められている。

5組合の理事長による合併契約書調印式

対馬組合が長崎県組合に合併

昨年の10月30日の調印式に出席したみなさん

九州北部連合会（加藤正信会長）管内の対馬組合（組合員数87名、酒井幸弘理事長）が、4月1日をもって長崎県組合（組合員数500名、中島末利理事長）に合併する。

長崎県においては、2016年（平成28年）4月に県下5組合（長崎・諫早・平戸・有川・壱岐）が合併、長崎県組合を立ち上げており、今回の合併は6事例目となる。

対馬組合は、昨今の喫煙環境の悪化に伴うたばこの売上げ減少、また従来から組合事業として行っていた購買事業も同様の傾向にあるため、合併することを決定した。

合併にあたっては、複数回にわたる協議会を開催し、昨年の10月30日に合併に関する基本協定書の調印を行っていた。

加藤会長は、「各理事長のご尽力とご理解に心より感謝したい。益々厳しくなっているたばこ業界の中で、たばこ組合は、販売店の利益を守るため、これまで以上に団結する必要があり、たばこ組合の必要性、存在意義は従来以上に大きくなっている。今後とも、組合員が入っていて良かったと言える組合にしていきたい」と力強く話している。

新・煙・故・知・新

たばこと塩の博物館：谷田　有史

たばこ雑学講座㉓

たばこのキャッチコピーは時代と共に

たばこのポスターも時代と共に歩いてきたが、たばこのキャッチコピー（以下、コピー）も同じく、そこに〝時代〟が現れている。

昭和12年（1937）、日中戦争が始まって国内にも戦時色が強くなり始めた頃、京都小売人組合が作ったたばこポスターのコピーは、「国に国防　社交にタバコ」というもの。

昭和23年（1948）には前号でも紹介した三船敏郎を起用し、「好きな煙草だ　明るく吸おう」というコピーを添え、ヤミたばこの一掃を企図したポスターが制作されている。同年には、「ヤミたばこ消して文化の灯をともせ」というコピーを入れたポスターも作られているが、この頃のヤミの外国たばこのポスターも作られている。

この値段は当時、国産たばこの高級品だった「ピース（10本入り）」が60円だったのに対し、「ラッキーストライク・キャメル・チェスターフィールド」などが、20本入りで150円から200円だった。こうしたヤミの外国たばこの横行は、国産たばこの売れ行きに多大な影響を与えていたため、ヤミたばこの流通を防ぐ内容のポスターは、朝鮮戦争が休戦した昭和28年（1953）頃まで制作されている。

昭和30年代を迎えると、コピー史にも残るようなたばこの名コピーが二つ現れる。一つは前号でも紹介した水野久美、白川由美ら、当時新進の女優を登用した女優シリーズのポスターに使用された「たばこは動くアクセサリー」、そしてもう一つが、昭和31年（1956）3月から発売された「いこい（20本入り）」の宣伝用ポスターのコピーに使用された「今日も元気だ　たばこがうまい！」である。

鉢巻き姿、ヒゲ面のおじさんがタバコを耳に挟んだデザインのポスター（**写真参照**）は、今見てもとても斬新な構図で、戦後の混乱が終わり、ようやく人びとの生活も安定し、活気ある時代を迎えつつあった中で、このコピーは世相にぴったり当たり、「いこい」の売れ行きもうなぎ登りとなった。

その後も「タバコは心の日曜日」「よろしかったらパートナー」「ナイスデー・ナイススモーキング」「白いベストセラー」などなど、時代の雰囲気にマッチした、たばこのコピーが数多く生まれている。

それにしても当時の広告業界のコピーライターたちは、これらの名コピーを生み出すために、いったい何本のたばこを煙にしたことだろう。

「今日も元気だ　たばこがうまい！」＝昭和32年（1957）：たばこと塩の博物館蔵

ニュース斜め読み

近鉄の特急列車から喫煙車両が消えた!!

座席にゆったり腰を掛けて、たばこを一服しながら車窓に流れる風景を楽しめなくなった――。近畿日本鉄道（近鉄）は、去る2月1日から特急列車の座席はすべて禁煙とする、「全席禁煙化」を実施した。「喫煙車両」が消えたのは、2020年4月1日の改正健康増進法の全面施行を踏まえたものだという。とはいっても、特急列車内に喫煙ルームを設置し、喫煙・分煙環境が整備されたことにより、一方的に喫煙者を締め出さないことが救いである。

交通機関の喫煙規制の始まりは、航空機が1998年・私鉄（首都圏）が2003年に全面禁煙化、JR東日本の新幹線・特急列車は2007年に全面禁煙化、JR西日本も同年に特急列車が禁煙となった。今では各社の列車内全面禁煙が定着化している。

旅する愛煙家に快適さを提供するためにも、近鉄のように特急列車内には喫煙ルームを必ず設置してほしいものだ。

たばこ自販機の本領発揮か!?

日本フランチャイズチェーン協会の発表によると、2019年のコンビニ店舗数5万5620店は、2005年の統計開始以来、初めて減少（前年比0.2％減）に転じた。

一方で、人出不足が深刻化しており、経営に影響が出ている。特に、深夜営業の在り方や夜間の営業時間の短縮などが課題になっている。その対応策の一つに挙がってきているものとして、夜間に自販機だけの売り場を設けて営業する（省力化）といった検証がある。

これまで、深夜のたばこ販売はコンビニの独壇場だったが、夜間の営業時間短縮分をカバーするには、たばこ自販機に依存せざるを得なくなる。しかも、年齢確認を兼ねたタスポカードが必要となる。これまでたばこ業界が取り組んできたタスポカードの普及が効力を発揮し、一般販売店での利用頻度も高まる可能性が出てきた。たばこ自販機に再び本領発揮の時期到来の予感がする。

思い出の小唄

たばこ屋さんを取り巻く環境は、時代が変り、質的変化を伴いながら厳しさを増しています。お店が意気消沈しては、お客様に心理的な影響を及ぼしかねません。そこで、今から9年前の2011年5月に石川県金沢組合女性部が総会で発表した「たばこ屋小唄」（**下記**）を紹介しましょう。

全国のたばこ屋さん元気を出しましょう！

当時は、2010年10月のたばこ税の大増税、翌年3月の東日本大震災の影響で厳しい状況下でしたが、「たばこ屋小唄」は、〝これにくじけずに頑張ろう〟の意気込みが込められています。

現在と厳しさの状況は違えども「お座敷小唄」に合わせて歌えば、気分もスッキリとすることでしょう。是非、女性部の会合などの折りにお試しください。

【たばこ屋小唄】

〈風邪をひかずに転ばずに
笑い忘れずたばこ屋さん
頭と足腰鍛えつつたばこ
盛り上げがんばろう〉

〈たばこ吸う人吸わぬ人
分煙社会に取り組んで
吸い殻ポイ捨て美化活動
あなた気付いてマナー人〉

〈年齢確認、やれタスポ
ライター規制とつぎつぎと
ボケとるひまなど
ありゃしない
今日も元気にたばこ売ろう〉